

第2章

ふじみ野市のスポーツを 取り巻く現状

1 ふじみ野市の特性

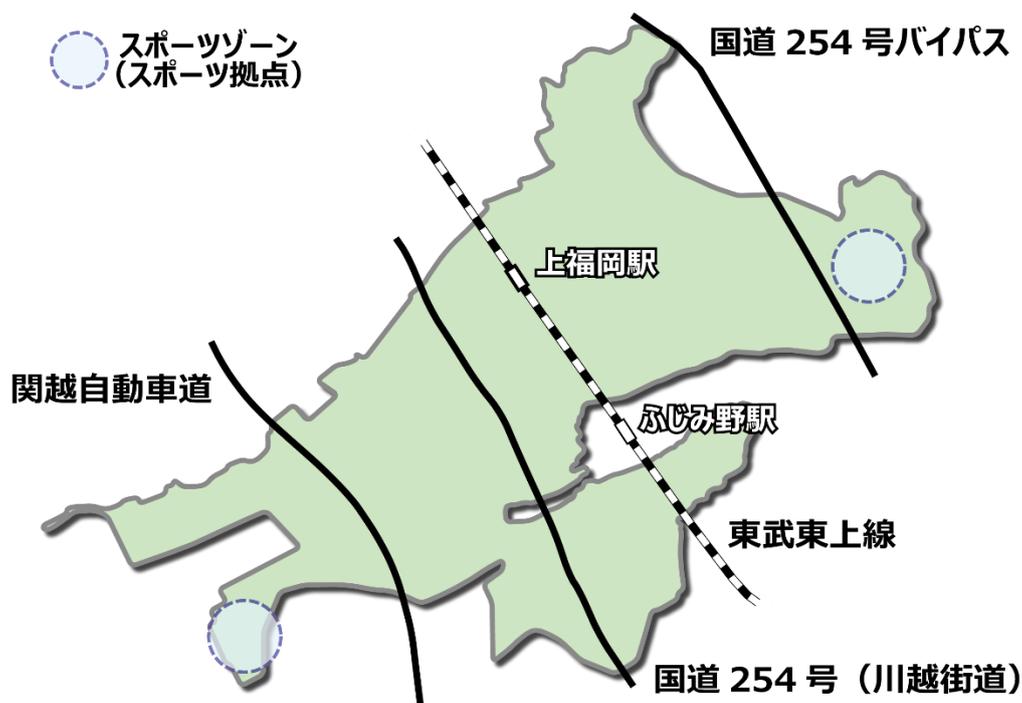
(1) ふじみ野市の概況

本市は、平成 17 年 10 月に旧上福岡市と旧大井町が合併して誕生し、東京都心から 30km 圏の埼玉県南西部に位置しています。市域は、東西 7.5km、南北 6.0km、面積 14.64km²で、武蔵野台地北部のほぼ平坦な地に位置し、荒川に向かって西から東へ緩やかに傾斜しています。

市の東部には国道 254 号バイパス、西部には関越自動車道、ほぼ中央には国道 254 号（川越街道）が、それぞれ南北に市を貫いています。また、これらの道路と並行する形で東武東上線が走っており、市内の上福岡駅や隣駅のふじみ野駅を利用し、都内への通勤通学に便利な住宅都市として、現在も人口は若年層を中心に増加傾向が続いています。

一方で、典型的な都市近郊型農業地域に見られるように、北部市境に沿って南北に新河岸川が流れており、周辺地域では水田が広がっているほか、沿岸には斜面林などの自然環境が残されています。また、権現山や大井弁天の森、武蔵野の面影を残す畑や雑木林など、緑豊かな環境が保全されています。

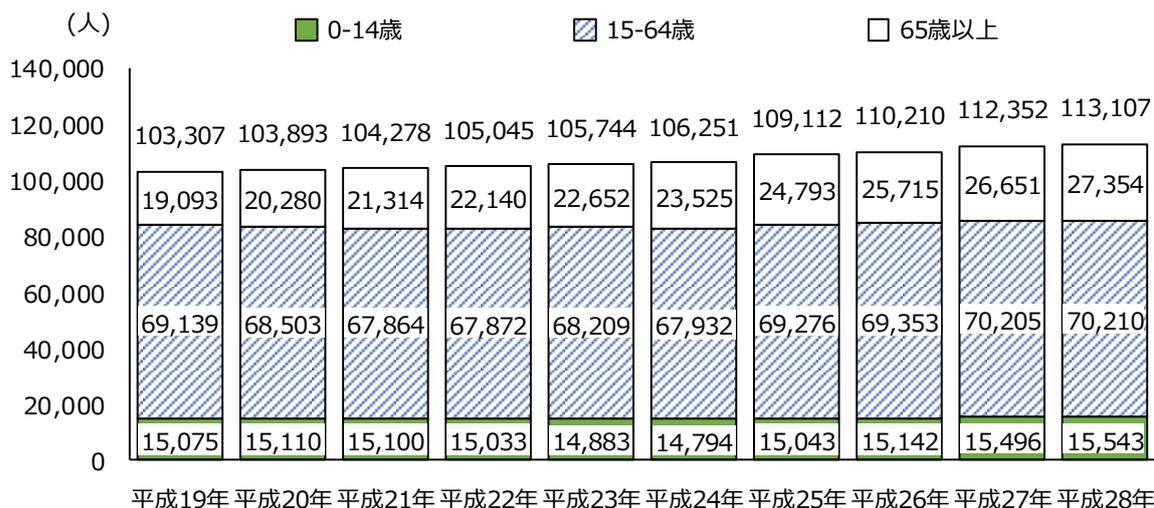
本市のスポーツ振興を図る上では、こうした都内への交通の利便性やコンパクトな都市機能、豊かな自然環境といった地域特性を活かしたまちづくりの視点を持った施策展開が重要になります。



(2) ふじみ野市の人口

本市の人口は年々増加しており、平成26年には総人口が11万人を超えました。特に0～14歳までの年少人口と65歳以上の高齢者の増加が進んでおり、今後さらに増加することが予測されます。

■人口の推移（ふじみ野市）



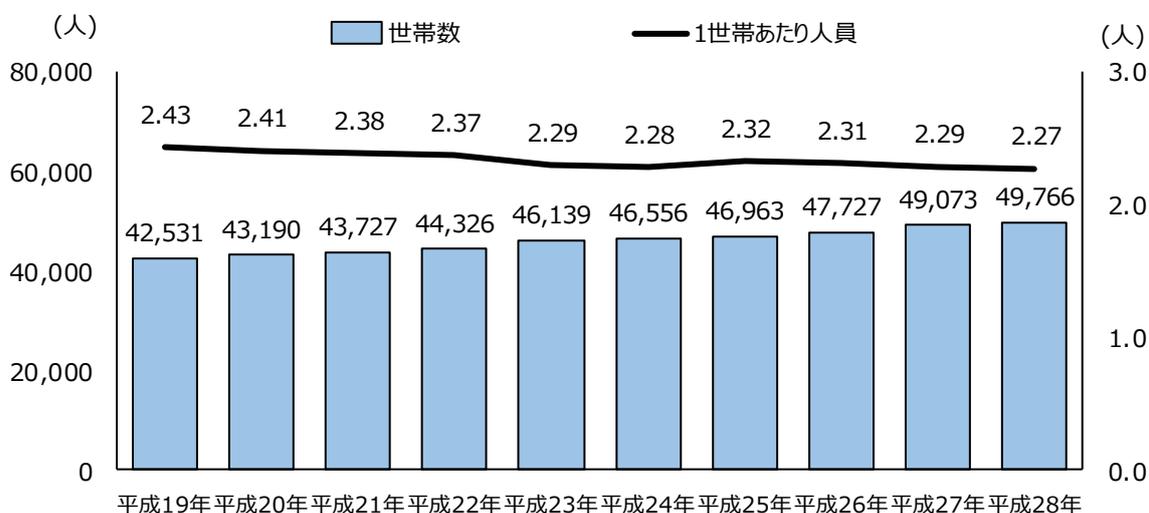
資料：ふじみ野市情報・統計課（各年4月1日現在）

※改正住民基本台帳の施行により、平成25年以降は外国人住民も含まれています。

(3) 世帯数の推移

本市の世帯数は年々増加していますが、1世帯あたりの人員は、平成26年以降は減少傾向が見られ、核家族化が進行していることがうかがえます。

■世帯数の推移（ふじみ野市）



資料：ふじみ野市情報・統計課（各年4月1日現在）

2 市民意識調査結果から見る現状

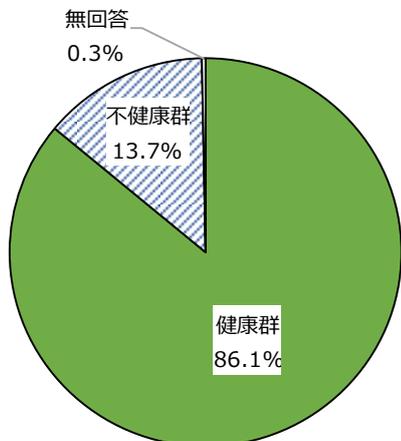
(1) 健康・体力の主観的評価

【健康の主観的評価】

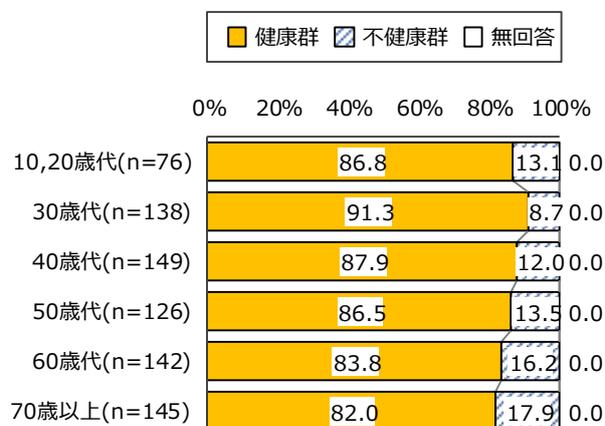
- ・市民の大半は「健康群」に属しています。
- ・年代が高いほど「不健康群」の割合が高くなる傾向が見られます。

■健康の主観的評価

n=778



■市のスポーツ環境の評価（年代別）

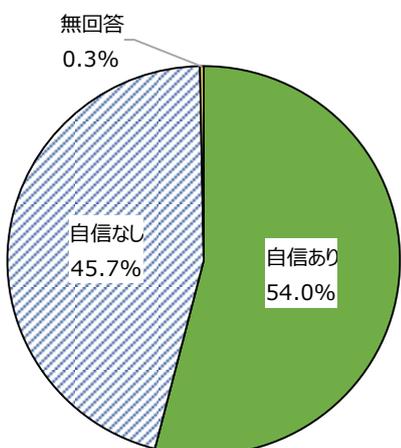


【体力の主観的評価】

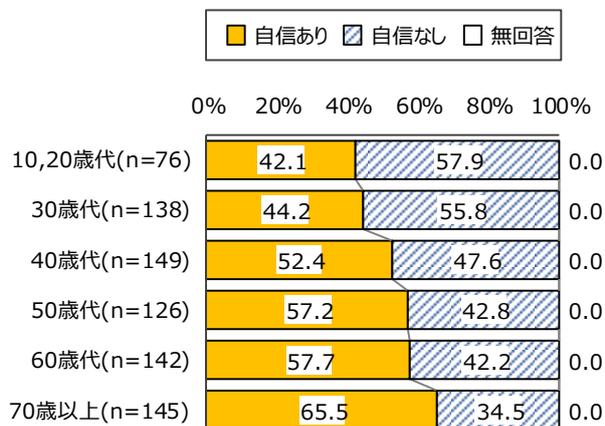
- ・「自信あり」は54.0%にとどまっています。
- ・30歳代以下の年代は「自信なし」が過半数を占めています。
- ・年代が高いほど「自信あり」の割合が高くなる傾向が見られます。

■体力の主観的評価

n=778



■体力の主観的評価（年代別）



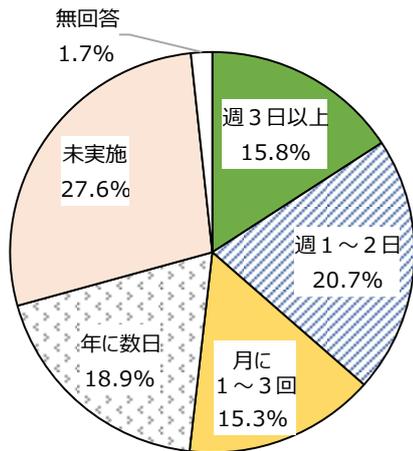
(2) スポーツの取組状況について

【スポーツの取組頻度】

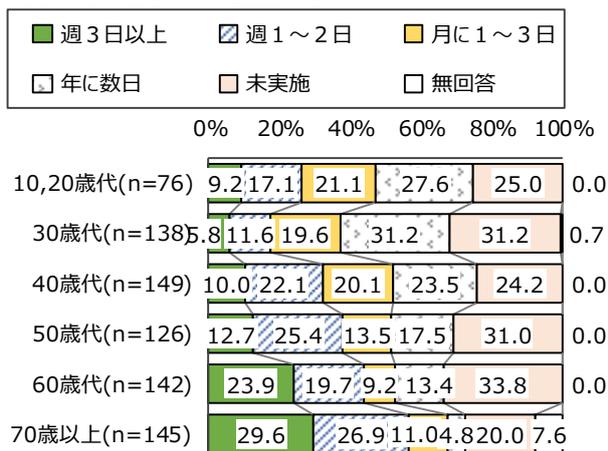
- ・市民の7割強は1年間に何かしらのスポーツに取り組んでいます。
- ・年代が高いほど取組頻度が高くなる傾向が見られます。

■スポーツの取組頻度

n=778



■スポーツの取組頻度（年代別）

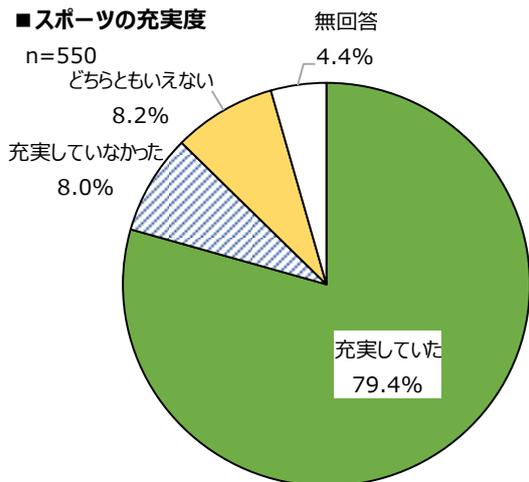


【スポーツの充実度】

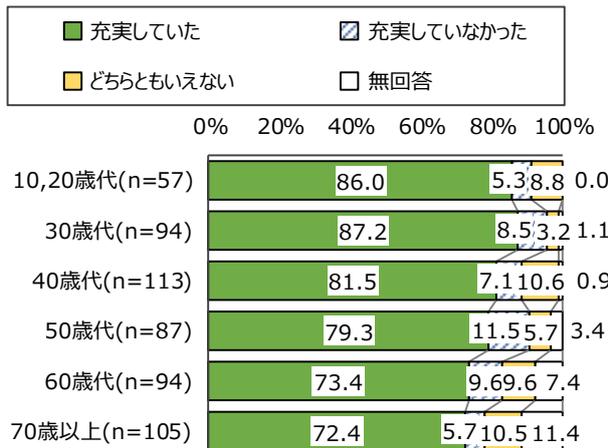
- ・スポーツに取り組んだ市民の79.4%が「充実していた」と回答しています。
- ・年代が高いほど充実度が低くなる傾向が見られます。

■スポーツの充実度

n=550



■スポーツの充実度（年代別）

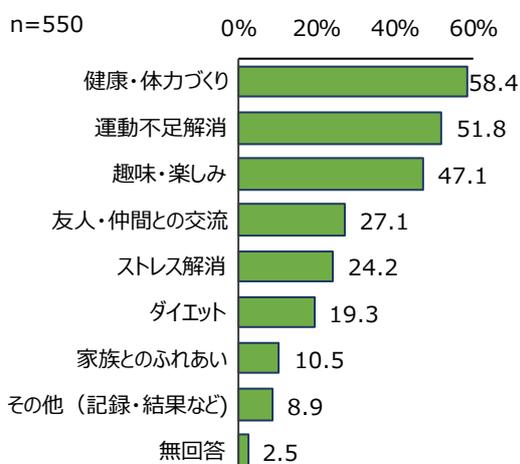


(3) スポーツの実施状況について

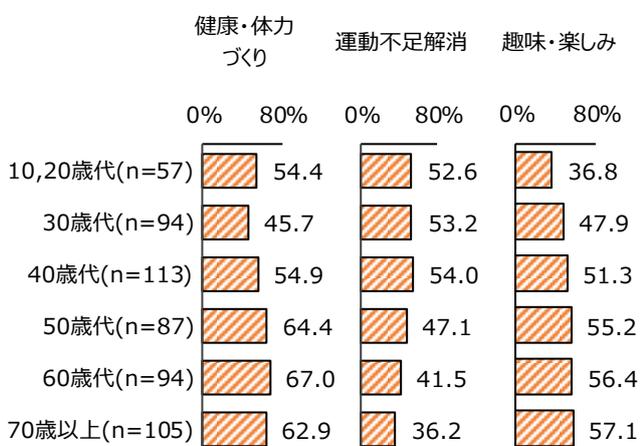
【スポーツに取り組んだ理由】

- ・「健康・体力づくりのため」が58.4%、「運動不足解消のため」が51.8%を占めています。
- ・「健康・体力づくり」と「趣味・楽しみ」は年代が高いほど割合が高く、逆に「運動不足解消」は若い年代で割合が高くなる傾向が見られます。

■スポーツに取り組んだ理由



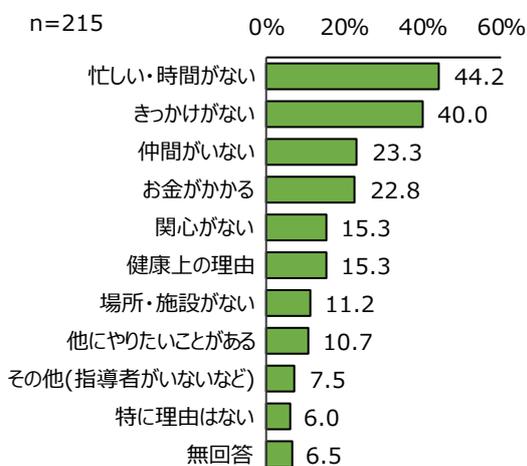
■スポーツに取り組んだ理由(上位3位・年代別)



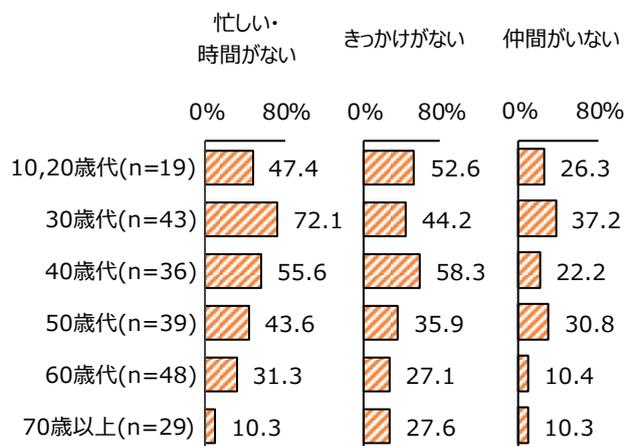
【スポーツに取り組まなかった理由】

- ・「忙しい・時間がない」が44.2%、「きっかけがない」が40.0%となっています。
- ・上位3位の理由は、50歳代以下の年代で割合が高くなる傾向が見られます。

■スポーツに取り組まなかった理由



■スポーツに取り組まなかった理由(上位3位・年代別)



(4) スポーツの実施内容について

【取り組んだスポーツ】

- ・「ウォーキング」や「筋力トレーニング」など、気軽に取り組める運動の割合が高くなっています。
- ・野外スポーツでは「ゴルフ」、「サイクリング」、「ハイキング」が比較的高い割合になっています。

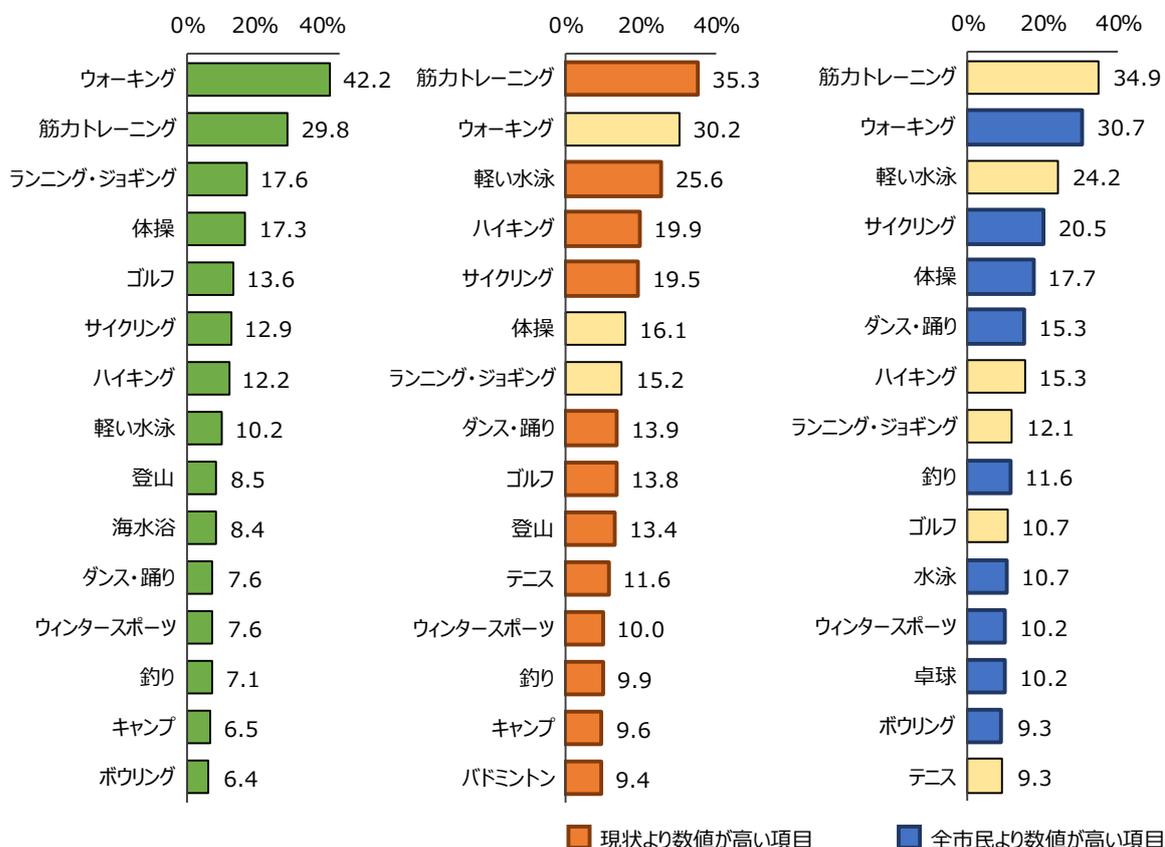
【取り組んでみたいスポーツ】

- ・「筋力トレーニング」が35.3%で割合が最も高く、現状の取組と同様に、気軽に取り組める運動の割合が比較的高くなっています。
- ・「軽い水泳」や「ハイキング」などの割合が現状値より高くなっています。
- ・競技スポーツでは「テニス」や「バドミントン」などの割合が現状値より高くなっています。
- ・スポーツに取り組んでいない市民では「ウォーキング」、「サイクリング」、「体操」、「ダンス・踊り」、「釣り」などの割合が比較的高くなっています。

■ 取り組んだスポーツ
(上位15位)
n=550

■ 取り組んでみたいスポーツ
(全市民・上位15位)
n=778

■ 取り組んでみたいスポーツ
(未実施の市民・上位15位)
n=215

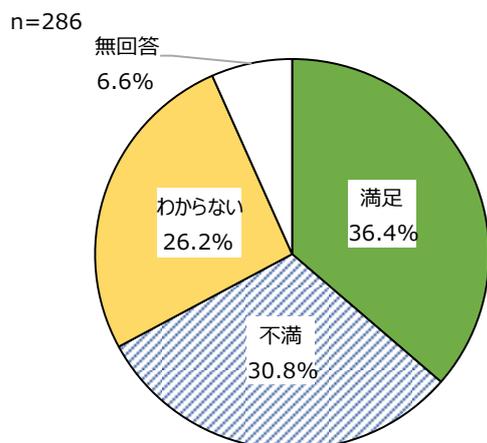


(5) ふじみ野市のスポーツ施設について

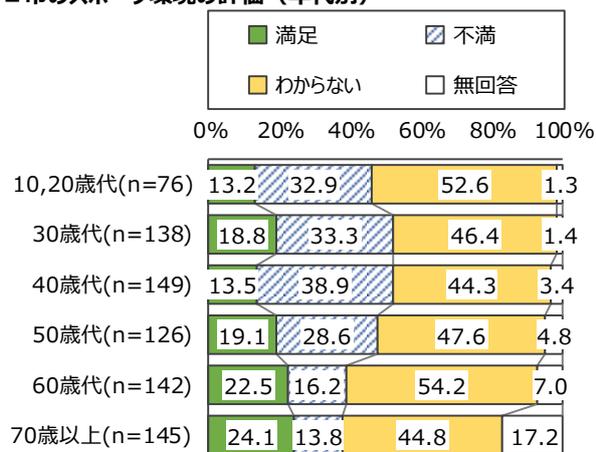
【市のスポーツ環境の評価】(市内施設利用者)

- ・市内施設利用者の評価は、「満足」が36.4%、「不満」が30.8%で評価が拮抗しています。
- ・若い年代の評価が低い傾向が見られます。

■市のスポーツ環境の評価(市内施設利用者)



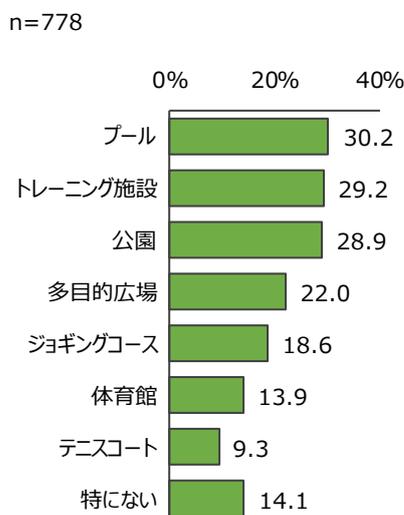
■市のスポーツ環境の評価(年代別)



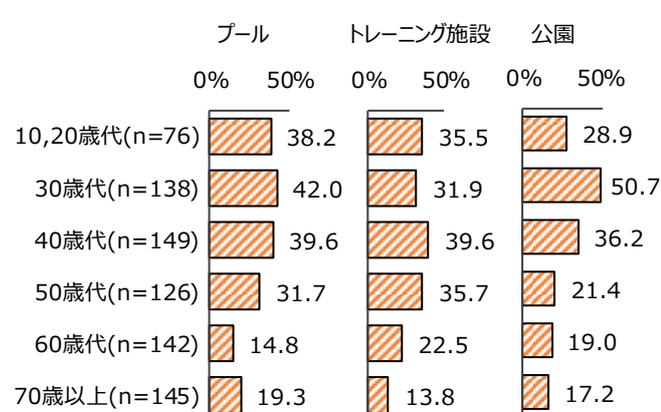
【充実してほしいスポーツ施設】

- ・「プール」が30.2%で割合が最も高く、次いで「トレーニング施設」、「公園」と続いています。
- ・上位3位の施設は、若い年代の割合が高くなる傾向が見られます。

■充実してほしいスポーツ施設(上位8位)



■充実してほしいスポーツ施設(上位3位・年代別)

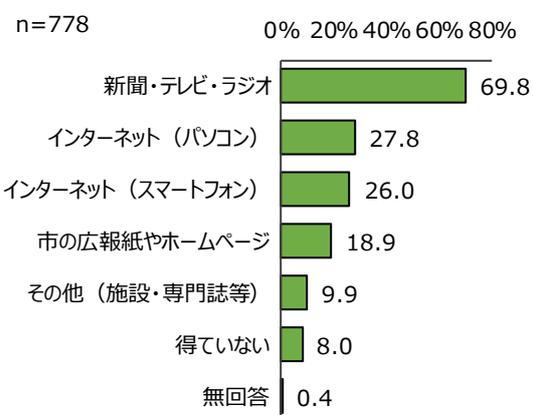


(6) スポーツに関する情報について

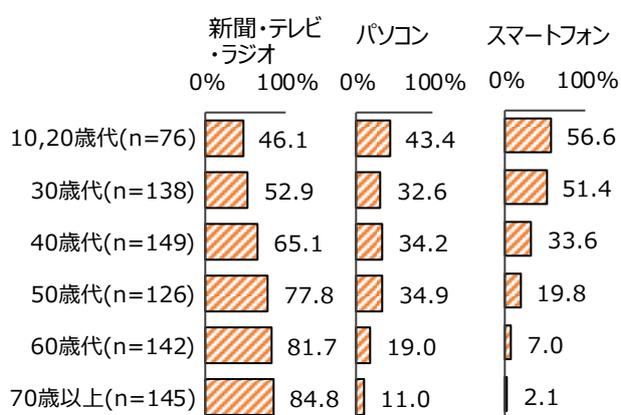
【情報の入手先】

- ・「新聞・テレビ・ラジオ」が69.8%を占めており、年代が高いほど割合が高くなっています。
- ・「インターネット（パソコン／スマートフォン）」は、若い年代で高くなる傾向が見られます。

■情報の入手先



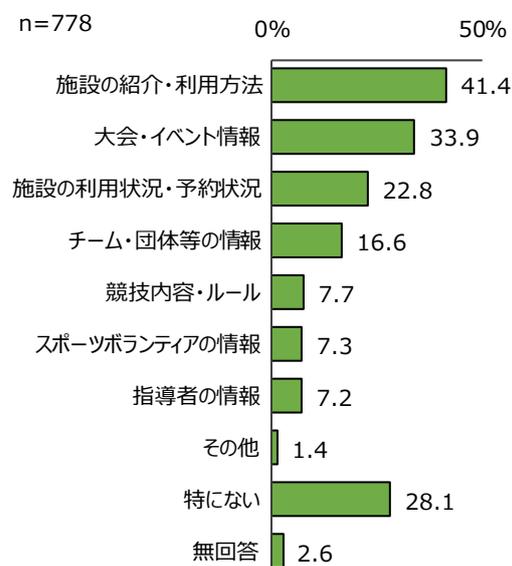
■情報の入手先（上位3位・年代別）



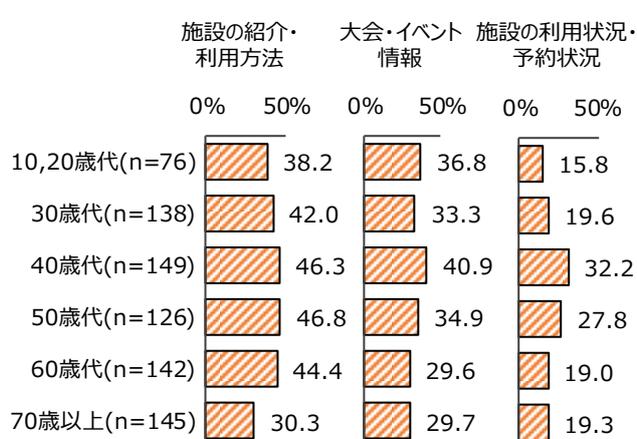
【充実してほしい情報】

- ・「施設の紹介・利用方法」が41.4%で割合が最も高く、次いで「大会・イベント情報」が33.9%となっています。
- ・施設に関する情報は40歳代、50歳代で比較的高くなっています。

■充実してほしい情報



■充実してほしい情報（上位3位・年代別）



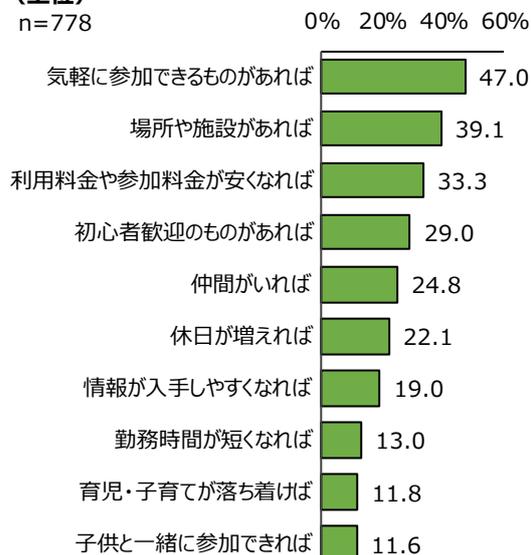
(7) スポーツに取り組むようになる条件について

【スポーツに取り組むようになる条件】

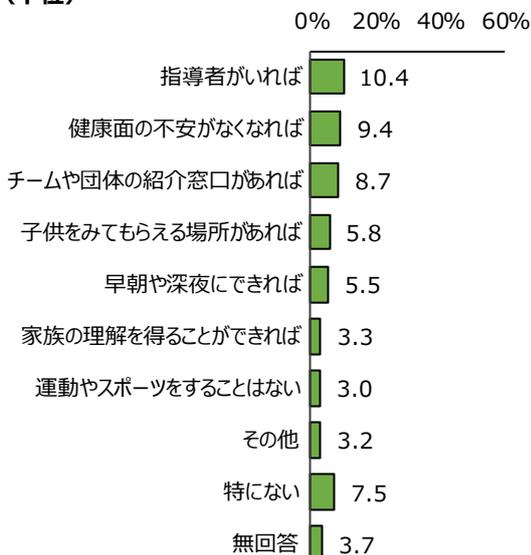
- ・「気軽に参加できるものがあれば」が47.0%を占めています。
- ・若い年代では「場所や施設があれば」、「利用料金や参加料金が安くなれば」、「休日が増えれば」などが比較的高くなっています。
- ・30歳代では「育児・子育てが落ち着けば」、「子供と一緒に参加できれば」など、子供に関する条件が高くなっています。
- ・年代が高いほど「健康面の不安がなくなれば」が高くなる傾向が見られます。

■スポーツに取り組むようになる条件 (上位)

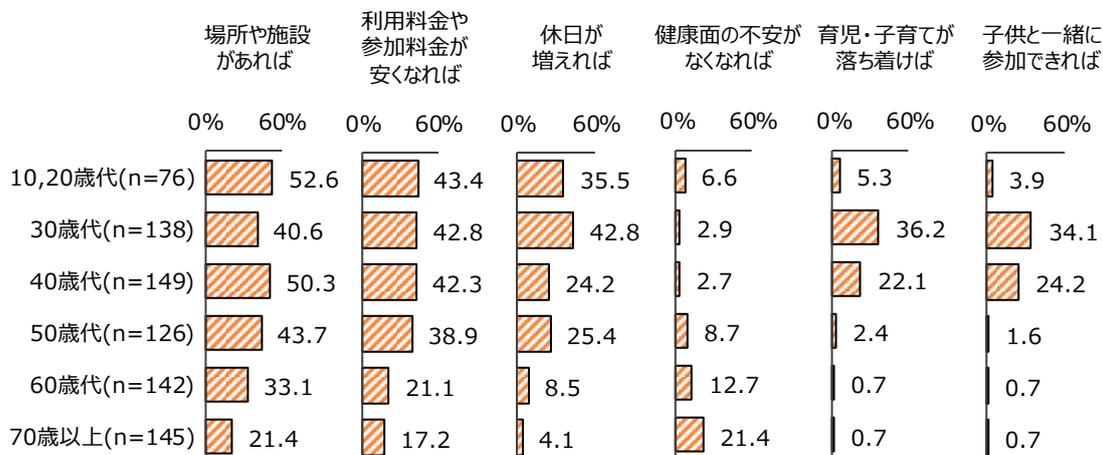
n=778



(下位)



■スポーツに取り組むようになる条件 (年代間の差が大きなもの・年代別)

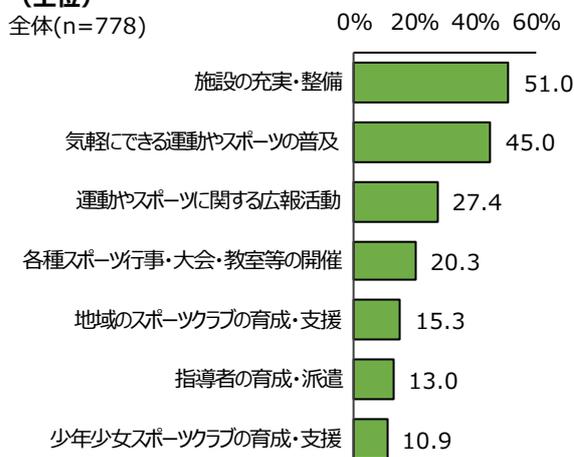


(8) ふじみ野市が力を入れるべき施策について

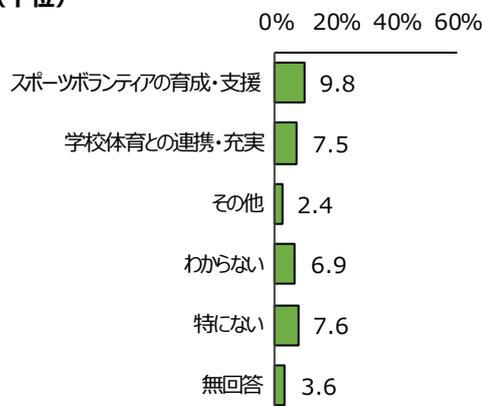
【ふじみ野市が力を入れるべき施策】

- ・「施設の充実・整備」が51.0%で割合が最も高く、特に若い年代で高くなる傾向が見られます。
- ・「気軽にできる運動やスポーツの普及」は45.0%を占め、年代が高いほど割合が高くなる傾向が見られます。
- ・30歳代、40歳代では「各種スポーツ行事・大会・教室等の開催」と「少年少女スポーツクラブの育成・支援」が比較的高くなっています。

■ふじみ野市が力を入れるべき施策 (上位)



(下位)



■ふじみ野市が力を入れるべき施策 (年代間の差が大きなもの・年代別)



3 ワークショップから見る現状

(1) 市内スポーツ団体等対象ワークショップ

本ワークショップは、市内でスポーツを行っている団体等の代表者を対象に実施し、活動上の課題やその解決策、今後の取組について検討しました。

【現状】

- ・スポーツをする人や支える人が高齢化している
- ・スポーツをする市民としない市民が二極化している
- ・スポーツをする人が集まらない
- ・行政とスポーツ団体、スポーツ団体間などの横のつながりが弱い
- ・子供や高齢者が気軽にスポーツを楽しめる環境が少ない

【キーワード】

- ・多様な市民のつながり（子供、高齢者、仲間づくり、地域の輪）
- ・きっかけづくり（身近な活動、活動やイベントのPR、地域スポーツ）
- ・顔の見える関係づくり（行政・学校・地域・団体等の連携）
- ・既存施設等の充実・活用（市内体育施設、公園、学校開放）
- ・人材の確保と育成（市民の理解・共感、指導者育成、高齢者の活用）

(2) 中高大学生対象ワークショップ

本ワークショップは、文化・スポーツに関する活動を行っている市内の中学生と高校生、文京学院大学及び大東文化大学の大学生に参加を依頼し、「ふじみ野市を文化・スポーツの力で魅力的なまちにするために、あったらいいなと思うことややりたいこと」について検討しました。

【アイデア】

取組	取組の視点・内容
スポーツフェスティバル	専門の選手との交流、技術を見る、触れる
プロスポーツを教えてもらう	競技力の向上、部活の充実、プロ選手を出す
オリンピックに携わる	ボランティア、ウェルカムスピーチ
あなたそんなことできたの大会	意外性、話題になる
ふじみ野スポーツパーク	様々なスポーツが楽しめる施設、公園やアートの要素も
学校の開放、体育館の開放	身近でスポーツができる場所、室内で運動できる場所
学校対抗スポーツ大会	交流、人脈づくり、絆づくり

4 スポーツの視点から見るふじみ野市の課題

調査結果から、本市の課題は次のように整理できます。

(1) 子供のスポーツの充実

- 20歳代から30歳代を中心とした子育て世代では、子供と一緒にできるスポーツの充実や少年少女のスポーツクラブの育成・支援といったニーズが高くなっています。
- 本市では、若年人口の増加率が県内でもトップクラスの水準で推移しており、子供のスポーツは重点的に充実すべき課題となります。

▷上記の課題解決に向け、子供のスポーツの充実のために

夢のある心豊かな子供の育成【基本方針1】

に取り組みます。

(2) 多様なニーズに応じたスポーツの展開

- 体力に自信がない若い世代が多く、スポーツへの取組頻度も低くなっており、忙しくても気軽に取組めるスポーツやきっかけづくり、仲間づくりが課題となります。
- 年代が高いほど、健康の維持・増進のためにスポーツに取り組む市民が多く、加齢による健康不安を解消する取組や、楽しみながら取り組むことができる取組をより充実することが求められます。
- 子供や高齢者のスポーツへの関心は高くなっていますが、障がい者のスポーツへの関心が低く、障がい者がスポーツをするという認識が薄い現状があり、障がいのある人もない人もともにスポーツを楽しむことができる意識づくり・環境づくりが重要です。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、健康づくりや体づくり、高齢者や障がい者への支援など、積極的な施策展開が期待されます。

▷上記の課題解決に向け、多様なニーズに応じたスポーツの展開のために

誰もがいつまでも親しめる生涯スポーツの推進【基本方針2】

に取り組みます。

(3) 将来のアスリート発掘と指導者の育成システムの構築

- スポーツを行う時間がない市民やきっかけがない市民が多くいる中で、スポーツに対する興味・関心を持つことができる取組が必要です。
- トップアスリート※⁴との交流や直接的な指導等により、市民がスポーツに興味・関心を持ち、スポーツへの参加意欲を高めるとともに、豊かな経験と知識を有するトップアスリートや指導者を育成し次世代につないでいくような、地域における好循環の創出が期待されます。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、市民のスポーツへの関心や参加意欲が高まりを見せており、競技者や指導者、ボランティアなど、様々な立場や視点からのスポーツへの参画が期待されます。

▷上記の課題解決に向け、アスリートや指導者の育成システムの構築のために

ふじみ野から未来にはばたく人材の育成【基本方針3】

に取り組みます。

(4) スポーツ環境の整備

- 市内のスポーツ施設について、利便性や設備面、利用方法についての満足度が低くなっており、様々な利用者の多様なニーズに対応できる整備方針を検討する必要があります。
- 施設の利用方法や大会・イベント情報などの情報について、市の広報やインターネット等を活用した多様な媒体による情報発信が課題となります。
- 子供や高齢者が気軽にスポーツを楽しめる身近な環境が必要とされており、市内の既存のスポーツ施設や公園などの有効活用が求められます。

▷上記の課題解決に向け、スポーツ環境の整備のために

いつでもどこでも楽しめるスポーツ環境の整備【基本方針4】

に取り組みます。

※4 各競技において最高水準の実力を認められている運動選手。